

行政視察レポート

総務産業常任委員会

初日は山梨県内の次世代エネルギー施設について視察をしました。都留市役所前に設置した家中川（かちゅうがわ）小水力発電所「元気くん1号」

をはじめ「エコハウス（21世紀環境共生住宅）」など、エコの取組みを実感できる施設でした。

次いで、甲府市の米倉山太陽光発電所とPR施設「ゆめソーラー館やまなし」にて視察研修を行いました。米倉山太陽光発電所は山梨県と東京電力が共同で建設した施設です。山梨県が用地を提供し、東京電力が太陽光発電所を建築し、運転・保守管理を行っています。一般家庭3400軒分の年間使用電力量に相当する1200万キロワットアワーの電力を一年間に生み出し、5100トンの二酸化炭素排出削減効

果を見込んでいます。

また、PR施設では、地球温暖化対策や再生可能エネルギー等について学習する場を提供するとともに、次世代エネルギーの情報発信の拠点として活用されています。



2日目は長野県小布施町、財団法人小布施町振興公社6次産業センターの視察研修を行いました。この施設は、地域が元気になれるようなシステム創りを目標に設立されました。

また、農業が食料品の原料のみ提供する1次産業に留まることなく、食品加工（2次産業）や販

売・情報・観光（3次産業）へも積極的に乗り出し、付加価値と雇用の場を創り出すことを目指した施設でもあります。

地域の皆さんの積極的な利用が小布施町を訪れる人々への特産物の観光情報の発信へとつながっているようです。住民と行政が一体となって取り組んだ歴史と文化を活かし、6次産業を上手に活用したまちづくりは全国的に注目を集め、年間120万を超える人々が小布施町を訪れているとのこと。

鳩山町の全町公園化・遊休地活用事業を推進するために取り込むべき施策が見られました。

（日坂）



長野県小布施町 6次産業センター前

福祉文教常任委員会

10月7日茨城県石岡市の瓦塚窯跡遺跡を、10月8日に長野県軽井沢町の保健福祉総合施設を視察しました。

石岡市・瓦塚窯跡群は天平13年（741年）現在の石岡市国府周辺に国府尼寺を建立するときに屋根に使う瓦類を製造した窯跡です。

土地が粘土質のため、窯の構造は山地をくり抜いて造られた「地下式有段登り窯」と判明し、焼成部は5段に造成されています。

昭和12年に茨城県の史跡に指定されました。その後「布目瓦」と呼ばれる多くの瓦類が確認されました。「瓦塚保存会」が組織され、活躍により本年までに34基が発見、全国的に最大級となりました。

今後当町においても、国分寺瓦関係の国指定化に向けて多いに参考にすべき点を感じました。

軽井沢町の保健福祉総合施設は、自然の中で優しさや温もりを感じる「木もれ日」を感じ安らぎを与えてくれる「里」のような場所を「木もれ陽の里」と名付け保健と福祉の拠点を目指し、平成19年に開館しました。

構造は鉄筋コンクリート造り2階建、延面積5700平方メートル、内部は保健予防部門・障害者支援部門・高齢者生活支援部門・健康増進部門などに区分されています。更にデ

イサービスセンター・ショートステイ・水中運動室・トレーニング室・浴室などがレイアウトされ複合施設として確立されており、利用者は60歳代が多く町内巡回バスの利用が多いとのこと。

今後当町内に於いても複合施設の開設が予定されていますが、立地・規模・利



瓦塚窯跡遺跡の説明を受ける



「木もれ陽の里」施設内

用方法などを充分に検討して鳩山町に最適と思われる施設を考えて進むべきであると思われます。

（田中）